

H23.7.20(水)

たつみっこのための



すたなび

NO. 18

辰美小学校

今日で1学期も終わりました。新しい学年になっての通知表「のびゆく子」をご覧になっていかがでしたか？通知表を開いたとき、「よくできました」の数だけに一喜一憂してしまいがちですが、〇（マル）がついているその内容に目を向けてほしいと思っています。〇（マル）のついている数ではなく、それぞれの教科のどの部分がよくできているのか、またどんなところをがんばらなくては、ならないのかをぜひ、お子さんといっしょに見て考え、2学期に向けて備えてほしいと思います。

さて、今年度は「朝の読書」をさらに広げ、毎週水曜日に『読み聞かせ』を始めました。担任の先生はもちろんのこと、担任外の先生も入りそれぞれの学年を回っています。水曜日は「読み聞かせの日」として、8：25～8：35の10分間、子どもたちは集中し、かぶりつきで本を見て、聞いています。



読み聞かせて??

「読み聞かせ」って就学前までじゃないの？とも聞きます。しかし、年齢が上がっても、読書への導入としても有効であり、集中して話を聞く訓練にもなります。

★読み聞かせの効果には、以下のことがあります。

- ・聞く力を育てる
- ・子どもが本好きになる
- ・本に対する興味を育てる
- ・言葉をたくさん覚える
- ・ことばからイメージする力を育てる
- ・読み手と聞き手の交流が深まる
- ・読んでくれた人とのスキンシップにより落ち着いた心がはぐくまれる
- ・早く一人で本を読めるようになる
- ・物語にたくさん触れることで、感性が養われる



また、幼い頃に本の読み聞かせをいっぱいしてもらった子は、本の世界の楽しさを知り、本が大好きになります。そして読み聞かせによって、母と子が楽しい時間を共有でき母と子の絆を強くすることができます。

もう一つのメリット！

読み聞かせは、読む方の側にとってもプラスになります。絵本には大人も小さい頃夢中になって読んでいた懐かしい記憶があります。忘れかけていた温かい気持ちを思い出すことでしょうか。絵本は子どものためだけのものではなく、全ての人の心を育てます。



本を読むことは、心を耕すこと

本を読むことで、想像の世界を広げ、考える力をつけ、体験できないことも擬似体験できます。本を読むことや読み聞かせをすることは子どもたちの心を耕すことだといえるでしょう。私たち大人は、子どもたちが素敵な本と出会い、心を揺さぶられたり感動したりする時と場をつくってあげたいものです。

親子読書！おすすめします

子どもたちは、本を読んでもらったり読んだりすることが大好きだと思います。ところがなかなか時間がなかったりテレビやゲームに夢中になったりと、読むチャンスを逃しているようにみえます。少しの時間でも、子どもさんといっしょに本を読む時間をつくってくだされば、うれしいです。おうちの方が読み聞かせてあげてもいいでしょう。また、1ページずつ読み合うのも楽しいですね。選んだ本を見て、子どもたちが興味を持っていることを知ることもできます。

また、高学年であれば、親子で違う本を読み合い、後で交換して読む。親が小学生の頃に読んでいた本を紹介し、読む。などの活動もあると思います。違う本を同じ部屋で読むというだけでもいいと思います。お忙しいとは思いますが、少しの時間を子どもたちとの読書につかってあげてください。

親子読書のしかた

- (1) 親子で同じ本を一緒に読む。
- (2) 親子で読書タイムを持つ（別々の本を読む）。
- (3) 子どもが親に本を読んで聞かせる。
- (4) 親が子どもに本を読んで聞かせる。

ぜひこの長い夏休みの間にでもご家族で取り組んでみてください！

